

On the Significance of Collocations in Vocabulary and Language Teaching

Miharu Akimoto
Japanese Studies
Keisen Jogakuen College

Summary

The aim of this paper is to emphasize the importance of collocation, and at the same time to give new recognition of the teaching of vocabulary.

Considering the burden upon learners to learn vocabulary, I believe that learning words in collocation (for example, *eikyo o ataeru*, *koi ocha*, *kanousei ga takai*, and *gussuri neru*) is most effective and time-saving. I shall propose to establish paradigmatic sets which will contribute to the systematic method of teaching words in collocations.

語彙教育における連語指導の意義について

On the Significance of Collocations in Vocabulary
and Language Teaching

恵泉女学園大学日本文化学科 秋元美晴

0. はじめに

日本語は語彙の効率のあまりよくない言語であると言われている。表-1は日本語とほかの言語の語数とそのカバー率を表したものであるが、フランス語の場合、上位5000語で延べ語数の96%以上を占めるのに対して、日本語では90%以上を占めるのには、上位約10000語を必要とすると言われている。これは日本語の語数が他の言語に比べ非常に多いことを意味している。

言語 語数(上位)	英語	フランス語	スペイン語	中国語	日本語
1~150				48.0	
1~300				59.7	45.3
1~500				67.1	51.5
1~1000	80.5	83.5	81.0	76.5	60.5
1~1500				79.0	
1~2000	86.6	89.4	86.6		70.0
1~3000	90.0	92.8	89.5		75.3
1~3500					77.3
1~4000	92.2	94.7	91.3		
1~5000	93.5	96.0	92.5		81.7
計	93.5%	96.0%	92.5%		81.7%

表-1 (『語彙の研究と教育(上)』p.101)

従って、日本語教育でも初級では1500~2000語、中級では5000~7000語、上級では7000語以上もの語が必要とされている。(注1)

日本語のみならず、一般に外国語学習における語彙習得に払われる努力は外国語学習全体の大半を占めると言われている。日本語のように語彙数の多い言語の学習は、語彙習得のために学習者に相当な努力を強いていることが予想さ

れる。日本語教育において、中・上級は表現の多様化を目指す段階と言われ、語彙の増大をはかることが重要となってくる。しかし、時間的制約の上に、語彙量が著しく増加すること、また、この段階では学習者の目的により必要とする語彙が異なるという考えなどから語彙の学習は学習者に任されることになり、語彙教育は意識的に行われていないのが現状であろう。これは、語彙が他の言語要素である、音声、文字・表記、文法に比べて蕪雑であり、抽象化や一般化がしにくいということも一つの原因だと考えられる。一方、以前から語彙教育の組織的、体系的な方法の研究や開発が期待されているにもかかわらず、日本語教育全般から見ても、それらは立ち遅れていると言えよう。

本稿の目的は、連語指導の軽視とその意義を指摘することにより、語彙教育の重要性を再確認することにある。

1. 連語の誤用例

中級の段階の学習者の作文には以下のような誤用が目立つ。

1. 彼らは独特の言葉を話したり、流行語を作ったりする特徴を持っている。
2. 体を健康にするために、規則的な生活をやろうと思っている。
3. その商品には大きい需要があった。
4. 朝早くから駅に並んで、とうとう切符を買うことができた。

1と2は韓国語を母語とする学生の誤用例で、3と4は英語を母語とする学生の誤用例である。誤用には母語の干渉によるものや類推によるものなどが考えられるが、日本語母語話者にとっては自然な語の結び付きである「特徴」と「ある」、「生活」と「送る」、「需要」と「多い」などの語の結合が、学習者には難しいことがわかる。これらは、「特徴」「生活」「需要」「とうとう」という語は習得していても、実際の言語伝達行為において語が正しく使えていない例である。「特徴がある」「生活を送る」「需要が多い」などを連語をよび、語彙教育の研究、開発の一つの試みとしてこれらの連語を取り上げ、その具体的な指導方法をも考えていきたい。

2. 連語の定義

従来、「連語」はいろいろ定義されている。『国語学大辞典』（注2）によれば、

二つ以上の単語が連続して、単語より複雑な一まとまりの観念を表わし、

しかも、まだ文をなすに至らないものをいう。

とあり、「庭の」「庭の桜」「庭の桜が」などの単なる語結合を連語とよんでいる。宮地裕氏(注3)は、慣用句と一般連語句と連語成句を次のように区別している。

一般連語句・・・語句の一般的な意味の範囲を連結するもので相互に離合自由なものを典型とする。

連語成句・・・その中の一部の語に原義がまだ生きていて、全体として派生的な意味を持つには至っていないものを典型とする。

慣用句・・・その中の語句が比喩的、象徴的に用いられ、全体として派生的な意味を持つ。

また、国広哲弥氏(注4)は、次のように定義している。

語結合・・・単なる語の連結

連語・・・二語(以上)の連結使用が、構成語の意味ではなく、慣用により決まっているもので、全体の意味は構成語の個々の意味から理解できるもの。

慣用句・・・二語(以上)の連語使用が固定しており、全体の意味は構成語の意味の総和からは出て来ないもの。

そのほかにも、連語にはいろいろな定義があるかもしれないが、本稿では連語を以下のように定義する。

連語・・・A + Bという語結合が習慣的に共起関係にあるもの。

具体的に説明すると次のようになる。

語
結
合

連
語

慣
用
句

地面に頭をつける
荷物が重い

日記をつける
責任が重い

目をつける
口が重い

「荷物が重い」は単なる語結合であるが、「責任が重い」となると、「重い」は「目方が多い」という原義ではなく、「程度がはなはだしい」という意味であり、これは連語ということになる。なぜなら、「程度がはなはだしい」ことを表現するのなら、「重い」でなく、「大きい」でも「濃い」でも「高い」で

も「深い」でもいいはずである。しかし、「責任」という語には、その程度がはなはだしいことを表現する時には、「重い」という語が共起する。これは、単なる習慣的なものに過ぎない。さらに、「口が重い」となると、「口」も「重い」も原義からずれて、全体として「寡黙である」という意味になるので、これは慣用句ということになる。

ここで注意を要するのは、語結合と連語と慣用句の間に明確な境界線が引けないということである。語の多義性のとらえ方の違いにもよるだろうが、例えば、「電話をかける」を語結合と考えるか連語と考えるか。これは連語と慣用句についてもいえる。宮地裕氏(注5)が述べているように、例えば、「寝返りを打つ」という表現は「寝たまま体の向きを変えること」という意味で使われる時は連語だが、「味方を裏切って敵につく」という意味で使われた場合は慣用句である。結局、語結合と連語と慣用句は線で示したようにグレードの問題であるといえよう。連語に限っていえば、連語の中にも程度により差がある。国広哲弥氏(注6)はゆるい連語と固い連語としている。ゆるい連語とは、連語の一部に、いくつかの交替形が認められるものであるとし、「電話をかける／する／入れる」を例としてあげている。また、「傘をさす」「碁を打つ」「雑用にかまける」をあげ、このようなAとBの二つの語が1対1で固く連結をなしている場合を固い連語としている。(なお、本稿では、「電話をする」のように「する」のつくものは連語として扱わなかった。これは、「する」は本来、文法的な働きをするための動詞として存在すると考えたからである。)

3. 連語の数

日本語教育にとって必要な連語はどのくらいあるのだろうか。宮地裕氏(注7)は概算として、中級日本語学習語彙を5000語とした場合、約300~400の連語成句(本稿でいう連語)があるとしている。

中級の教科書として広く使われている『日本語表現文型 中級Ⅰ』及び『日本語表現文型 中級ⅠⅠ』(注8)には本文中では約180の連語が使用されており、[語句]の欄には、そのほかに約40の連語が載っている。[文型 文法]や[練習]のページも調べれば、その数はもっと増えるだろう。なお、反義関係にある連語も載っている場合もあったが、それらは1つとして数えたので、それらも数えると220より増えることになろう。

4. 連語の種類

連語を品詞により分類すると、次の4種類に大別することができる。

①名詞+動詞

- a. 名詞+を+動詞・・電話をかける 損害を受ける 約束を守る
経験を積む 夢をいだく
- b. 名詞+が+動詞・・電話がかかる 事件が起きる 影響が出る
暖房がきく 許可がおきる
- c. 名詞+に+動詞・・電話に出る 事故にあう 実行にうつす
錯覚に陥る

②名詞+形容詞・・頭がいい 意志が強い 可能性が高い
酒に強い 地理に明るい

③形容詞/形容動詞+名詞・・濃いコーヒー 重い病気 はかない夢
あたたかな家庭 大きな効果

④副詞+用言・・ぐっすり寝る しみじみ思う 一風変わっている

このうち、①名詞+動詞からなる連語は220のうち175あり、全体の約80%を占める。その中でも、「名詞+を+動詞」からなる連語が多い。②名詞+形容詞は30で14%を、③形容詞/形容動詞+名詞と④副詞+用言はだいたい同じで、約4%を占めている。(④の副詞には、いわゆる陳述副詞はふくめなかった。)

5. 日本語学習者に対する連語能力調査

中級の段階の日本語学習者を対象に連語能力調査を1992年10月に実施した。調査概要は以下の通りである。(資料 参照)

①調査の目的

- a. 連語として使われる既習の語彙の運用力をみること。
- b. どの種類の連語が学習者にとって習得困難であるかをみること。

②調査の方法

A+Bからなる連語のAかBのうちのどちらかを隠し、そこに適当な語を入れさせる、いわゆるクローズテスト方式によった。問題は23問からなる。内訳は1. 名詞+動詞が10問、2. 名詞+形容詞および形容詞/形容動詞+名詞が6問、3. 副詞+用言が7問である。

調査した語は原則として『基礎日本語学習辞典』(見出し語数 2873語)(注9)で見出し語として取り上げられており、かつ『日本語教育基本語彙七種比較対照表』(注10)で3種以上の語彙資料で取り上げられているものとた。これに反するのは、1-gの「(暖房が)きく」と3-eの「ぐっすり」3-gの「げらげら」である。「(暖房が)きく」を入れたのは、調査対象者の連語に対する類推力を、また「ぐっすり」「げらげら」はオノマトピアの習得力をはかるためである。

③調査対象者

横浜にある日本語学校の飛鳥学院の就学生41名と群馬大学の留学生の14名、大分大学の留学生の9名の計64名で、中級のクラスの学習者。

学習歴

学習歴	1年未満	1年～2年未満	2年以上
人数	7	49	8

母語

言語	韓国語	中国語	インドネシア語	マレー語	ベトナム語	英語
人数	28	27	5	2	1	1

④ 正答率

1. 名詞+動詞

番号	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
正答率	92.2	35.9	87.5	87.5	21.9	70.3	21.9	37.5	7.8	79.7

平均正答率
54.2

2. 名詞+形容詞 形容詞/形容動詞+名詞

番号	a	b	c	d	e	f	平均正答率
正答率	14.1	68.8	46.9	67.2	46.9	68.8	52.1

3. 副詞+用言

番号	a	b	c	d	e	f	g	平均正答率
正答率	50.0	79.7	37.5	51.6	40.6	37.5	23.4	46.7

調査対象者のほとんどは韓国語、中国語をはじめ、そのほかのアジアの言語を母語としており、欧米系の言語を母語とする者は2名にしか過ぎない。このようなばらつきは是正されねばならないだろう。

指示文に「わからない言葉があったら、その言葉の下に線をひいてください」と明記したのは、問題文の中にわからない言葉があり、そのため解答が得られない場合を考慮したためである。64名のうち3名がそれぞれ一つの語に下線を引いた。1-jの「納める」と2-aの「アメリカン」と2-eの「ワープロ」である。2-aの「アメリカン」はわからないと「うすい」という答えを入れることができないであろうが、ほかの2語はわからなくてもそれほど解答に困ることはな

いだろう。従って、この3語が正答率に及ぼす影響は非常に少ないといえる。

正答は必ずしも1つとはしなかった。例えば、3-dの正答としては「もっと」を期待していたが、「少し」「どうぞ」「どうか」「なるべく」も正答とした。

23問中、正答率が65%以上のものは、次の9つの連語である。

1-a「シャワーを浴びる」 1-c「興味を持つ」 1-d「約束を守る」 1-f「意見があう」 1-j「義務がある」 2-b「重い病気」 2-d「意志が弱い」 2-f「暖かい／暖かな家庭」 3-b「ずっと東京に住んでいる」

正答率の高かった連語は、たまたま調査対象者の母語でも同じ連語関係にあるものや、あるいは、学習中の教科書に載っている場合など偶然性が左右することも考えられる。しかし、次の3つの連語の場合は次のように考えられよう。

1-aの「シャワーを浴びる」の定着がよいのは、初級のかなり早い時期に導入され、この段階では「シャワー」と「浴びる」のように別々の単語としてではなく、まとまった形、つまり一語として「食べる」「遊ぶ」などと同じように絵パネルや代入練習を通して学習させるためであろう。1-jの「義務がある」が予想に反して正答率が高かったのは、「時間がある」「試験がある」「電話がある」など、「名詞+が」の次の叙述部分は「ある」と共起することが多いことからの類推による正答も多かったのではないだろうか。

2-fの「暖かい／暖かな家庭」の正答率が68.8%と高かったのは、「暖かい」「暖かな」のほかに「幸福な」「よい」「いい」「楽しい」など好ましい状態を表す形容詞や形容動詞を入れたものが多く、それらも正答としたためである。問題の出し方を反省すべきであろう。

正答率が40%以下と低かったのは、次の9つの連語である。

1-b「かさをさす」 1-e「事故を起こす」 1-g「暖房がきく」
1-h「結論が出る」 1-i「風が止む」 2-a「うすいコーヒー」
3-c「ちょうど3時」 3-f「ずいぶん長い間」 3-g「げらげら笑う」

1-bの「かさをさす」の正答に対して誤答で最も多かったのは「かさを持つ」で23例もあった。「かさを持っている」「かさを持ち上げている」も1例ずつあった。これらは「かさをさす」という連語を知らないために、「物を持つ」の類推からの誤答とみられる。また、「かさをかぶる」も5例あったが、これは「帽子をかぶる」、「笠をかぶる」（飛鳥学院で教科書として使用している『日本語表現文型 中級I』p.127に出て来る）からの類推によるものといえるだろう。

1-eの「事故をおこす」は「事故を」であるので他動詞を入れるべきであるが、自動詞「ある」を入れたものが24例もあり、「おこる」という自動詞を入れたものも12例あった。

1-g「暖房がきく」の正答率は21.9%とかなり低かった。指示文に「動詞を入れなさい」と明記したにもかかわらず、「多い」「暖かい」「強い」という形容詞を入れた答えが7例もあった。また、「入れる」「つける」と他動詞を入れたものが13例、自動詞「つく」を入れたものが5例あった。

1-i「風が止む」の正答率は23問中、最も低く7.8%であった。無解答も6例あった。誤答で一番多かったのは「風が吹く」の19例であった。この誤答には二つの解釈が成り立つ。一つは「風が」に共起する動詞として「吹く」しか知らなかったという解釈であり、もう一つは「風が吹き始めると、外で騒いでいた子供達がみんな家に帰ってしまい、それで辺りが静かになった」というふうに考えたのではないかという解釈である。しかし、「風が吹いていた状態が途絶える」の意味の誤答である「止まる」「吹かない」「降らない」「ひく」「沈む」「ない」「終わる」「停止する」が25例もあったことから考えると、前者の解釈の方が自然であろう。

2-aの「うすいコーヒー」は、問題文の中の「アメリカン」の語の下に線を引いた者が一人いたことから考えて、他の調査対象者の中にも「アメリカンコーヒー」を知らない者もいたのかもしれない。欧米系の学生を多く教えていたので、「アメリカンコーヒー」についてはしばしば教室で話題になった経験からこの問題文を作ったのだが、アジア系の学習者にはわかりにくかったのかもしれない。広い意味での日本文化・日本事情に関するこの種の問題は注意しなければならない。誤答で最も多かったのは「おいしい」で24例もあった。食べ物や味に関する語と共起する語として早い段階で学習するのは「おいしい」であるためだろうか。

3-cの「ちょうど3時」は「ちょうど」の他に「たしかに」「きちんと」「ぴったり」「ぎりぎり」も正答とした割には正答率が低かった。無解答も10例あった。日常よく聞き、使用する副詞だと思うのだが、習得が難しいのであろうか。3-fの「ずいぶん長い間」は正答のバリエーションを「かなり」「ほんとうに」「大分」「とても」「たいへん」と広くしたにもかかわらず、正答率は低かった。無解答も22例と非常に多かった。「ずいぶん長い間お目にかかりませんでしたね」は挨拶の表現としては一般的であり、中級の段階の学習者は当然知っているものだと予想していたが、程度の副詞は習得しにくいものなのだろうか。

3-gの「げらげら笑う」には「わはは」「ハッハッハッと」が1例ずつあったが、それらも正答とした。無解答は34例と一番多かった。3-eの「ぐっすり寝る」とともにオノマトピアの問題である。オノマトピアは日本語学習者にとって、敬語、漢字と並んで習得困難なものの一つといわれているが、それを証明

している。

問題文の出し方に反省すべき点はいくつかあるが、一応の傾向はつかめると思うので、ここで調査結果からみた中級の段階の学習者の連語能力を概観してみたい。

全問の平均正答率は51.5%とかなり低い。先にも述べたように問題文の中にわからない言葉があったから正答が得られなかったとは考えにくい。要するに個々の語は知っていても、それを連語レベルで運用する力が低いことを意味しているといえよう。④正答率の1、2、3の平均正答率をみると、3の「副詞+用言」が46.7%と最も低い。これは学習者にとって副詞の連語が一番苦手であることを示しているといえよう。副詞は文構成上はあってもなくても支障を来すものではないため、かえって習得しにくいのかも知れない。また、副詞の複雑な性格が意味や用法に関係するだけに学習者には難しいのだろうか。しかし、畠郁氏(注11)も、

副詞は一種の空白補充語として、母語話者にはほとんど意識されないほど、空気のように必要欠くべからざる役割を果たしている。

と指摘しているように、日本語らしい表現には欠かせないものだけに、その重要性を考え、適切な指導が望まれよう。

1の「名詞+動詞」の連語は数量的にみても非常に多い。しかし、後部要素となる動詞には和語の動詞である「ある」「持つ」「とる」「かける」「起きる」「起こす」「与える」「受ける」「つく」などの、ある特定な動詞が来ることが多い。また、元来、日本語の形容詞の数が少ないことにもよるが、2の「名詞+形容詞」「形容詞/形容動詞+名詞」からなる連語は、構成語となる形容詞の種類がかなり限られている。特に、「名詞+形容詞」からなる「仲がいい/悪い」「意志が強い/弱い」「可能性が高い/低い」など、抽象性の高い名詞と形容詞が連語を構成する場合は、その傾向が強いといえる。どちらの場合も、はじめに、どのようなグループの名詞が、どのような動詞あるいは形容詞/形容動詞と共起関係にあるかを調べ、整理することが必要であろう。そして、その次に 学習者が習得しやすい方法を考え、適当な段階で、それらを提示し指導することは学習者の語彙の定着を促すことになるろう。

6. 連語指導の方法

次に連語指導の具体的の方法を考えてみたい。『日本語教育事典』(注12)には、

いわゆる連語や慣用句は、教育上の効果を考え、頻度の高いものは、一単位として取り出す配慮が必要である。まわりくどい説明よりも、一つの

慣用句としてまとめて教えるほうが直截的である場合が少なくない。とある。このように、従来、連語や慣用句は分析せず、一つのものとしてまとめて一つ一つ一単語のように教え、覚えさせる方法がとらえられてきた。連語に関していえば、初級の段階ではこのような方法が適当だろうが、中級以上の段階では、語彙の急増を考えた場合、望ましい方法とはいえないのではないだろうか。語彙力の増大とその定着をはかるためには、学習者が習得しやすいような能率的な連語の指導方法を考える必要がある。

ここで、英語教育においてはどのような連語の指導方法が考えられているのかを見るために“Working with Words”(注13)からいくつかの例を引いてみたい。(1)は中級の段階のクラスにおける教室活動の一つとして、makeとdoの二つの動詞に共起する名詞にはどのようなものがあるかを「家事」を例としてあげ、タスク練習にしているものである。

(1) STUDENT ACTIVITY

'MAKE' AND 'DO' - a questionnaire

In your house, who *does* or *makes* things?

Ask the other people in your group and fill in the information about them.

Who *does* or *makes* these?

	a man	a woman	either	who? you / your brother / wife / friend / father / etc.
the shopping			X	Juan or mother or sister
the washing-up				
the cooking				
the bed(s)				
the cleaning				
the decorating				
the most money				
the ironing				
a mess				
most of the decisions				

(2)はbeautiful, lovely, pretty, charming, attractive, good-looking, handsomeの7つの類義関係にある形容詞が、どのような名詞とは共起し、どのような名詞とは共起しないかを学習させるために考えられた表である。

(2)

	woman	man	child	dog	bird	flower	weather	landscape	view	day	village	house	furniture	bed	picture	dress	present	voice	proposal
beautiful	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		
lovely	+		+	(+)		+	+		+	+	+	+	(+)	+	+	+	+		
pretty	+		+		+				+		+		+	+	+				
charming	+	+	+							+	+							+	
attractive	+	+									+	+				+		+	+
good-looking	+	+	+	+															
handsome	+	+															+		

In speech, **beautiful**, **lovely**, **charming** and **attractive** are often used for situations in which their real meaning would be too strong, in order to express enthusiasm.

EXAMPLES

The walls were covered with a most $\left. \begin{array}{l} \text{beautiful} \\ \text{lovely} \\ \text{charming} \\ \text{attractive} \end{array} \right\}$ wall paper.

I'll come to see you about seven - will you be there? **Beautiful** - okay - see you later.

She does really **lovely** things for people like bringing them their favourite flowers on their birthday.

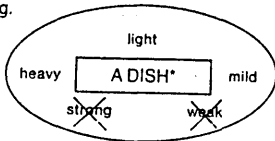
Bacon and eggs for breakfast! **Lovely!**

(3)も「形容詞+名詞」からなる連語の指導方法の一つとして考えられたものである。

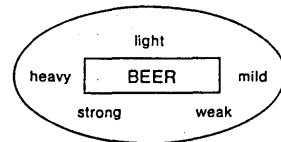
(3) STUDENT ACTIVITY

Look at the circles below. Do you know which adjectives you can use with the nouns in the boxes? Cross out the ones which you think are not correct:

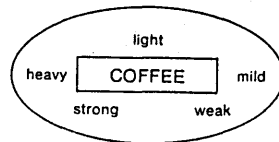
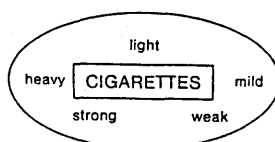
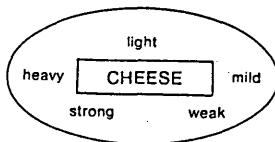
e.g.



* in the sense of a plateful of cooked food e.g. 'Paella is a Spanish dish.'



Now do the same:



© 1986 Cambridge University Press

このように連語の指導方法としてはいろいろのものが考えられるが、ここでは試案として、初めに名詞のparadigmatic set (入れ替え可能な語のまとまり) を設け、そのsetと共起する動詞、形容詞、形容動詞を考えてみたい。名詞を中心に考えたのは、動詞や形容詞、形容動詞よりも名詞の方が概念として把握しやすいからである。次に取り上げる連語は、主に『日本語表現文型中級Ⅰ』『日本語表現文型 中級ⅠⅠ』で使用されているものである。

1. 名詞+動詞

a. 名詞+を+動詞

(1) 修士号

国籍 + を + とる

(運転) 免許

100点

↓

資格や成績

↓

得る

(1)' 授業

クラス + を + とる

スペイン語

↓

授業や科目

↓

授業を受ける

(1)〃 休み

睡眠

食事

栄養

↓

休息や栄養

+ を + とる

↓

体中に入れる

a-(1)は動詞「とる」と共起する「成績や資格」の具体的な項目である「修士号」「国籍」「(運転)免許」「100点」をparadigmatic setとし、この場合、「とる」は「得る」の意味になることを示している。a-(1)'は「授業」「クラス」「スペイン語」の上位概念として「授業や科目」を立て、一つのparadigmatic setとし、このparadigmatic set と「とる」が共起する場合は「とる」の意味は「授業を受ける」の意味となることを示している。「名詞+動詞」か

らなる連語の後部要素となる動詞の「とる」「起こる」「かける」「ある」「できる」などの動詞の意味は希薄であり、前部要素の名詞により変わりうる。

(2) 授業

試験 + を + 受ける

診察

アドバイス

↓

外から自分に対する行為

↓

応じる

(2) 損害

・・・与える

被害 + を + 受ける

・・・与える

攻撃

・・・加える

ショック

・・・与える

↓

悪い事

↓

もらう

(「・・・」で示したのは反義関係の語である。以下、同様)

(3) 電話

声 + を + かける

言葉

↓

言葉による手段

↓

伝える

(3) 迷惑

心配 + を + かける

疑い

↓

苦しみ

↓

与える

(3) 期待

望み + を + かける

↓

期待

↓

する

b. 名詞+が+動詞

(1) 試験				・・・ない
会議	+	が	+	ある
(卒業)式				・・・ない
(発表)会				・・・ない
↓				↓
<u>(学校などの)行事</u>				<u>行われる</u>

(1) 事件				・・・ない
事故	+	が	+	ある
地震				・・・ない
↓				↓
<u>悪い出来事</u>				<u>起こる</u>

(2) 子供				
用事	+	が	+	できる
にきび				
↓				↓
<u>子供や物事</u>				<u>生まれる、生じる</u>

c. 名詞+に+動詞

(1) 会社				
家庭	+	に	+	入る
大学				
↓				↓
<u>学校や会社などの集団</u>				<u>加わる</u>

2. 名詞+形容詞

(1) (背	+	が	+	高い)
水準				
程度	+	が	+	高い
地位				
↓				↓
<u>程度や身分</u>				<u>優れている</u>

(1) 望み 理想 志
 ↓
心の中の目標

+ が + 高い
 ↓
優れている

(2) 地震 ・・・弱い
 火事 ・・・弱い
 暑さ ・・・弱い
 水 ・・・弱い
 ↓
災害や自然現象

+ に + 強い
 ↓
耐える力に優れている

(2) 英語 ・・・?..
 機械 ・・・弱い
 ↓
能力や技能

+ に + 強い ・・・弱い
 ↓
得意である

(1)の「背が高い」の「高い」は、「上から下までの長さが長い様子」の意味だが、「程度や身分」の具体的な項目である「水準」「程度」「身分」などの名詞のparadigmatic setと共起した場合は、「高い」は「優れている」の意味になる。「名詞+形容詞」からなる連語の後部要素の形容詞は、先に述べた「名詞+動詞」の動詞と同じように、その意味は希薄であり、共起する名詞により決定される場合が多い。ただ、「高い/低い」「いい/悪い」「強い/弱い」などのような程度を表す形容詞では、「高い」「いい」「強い」などの方がプラスの意味に、その反義語はマイナスの意味になる。

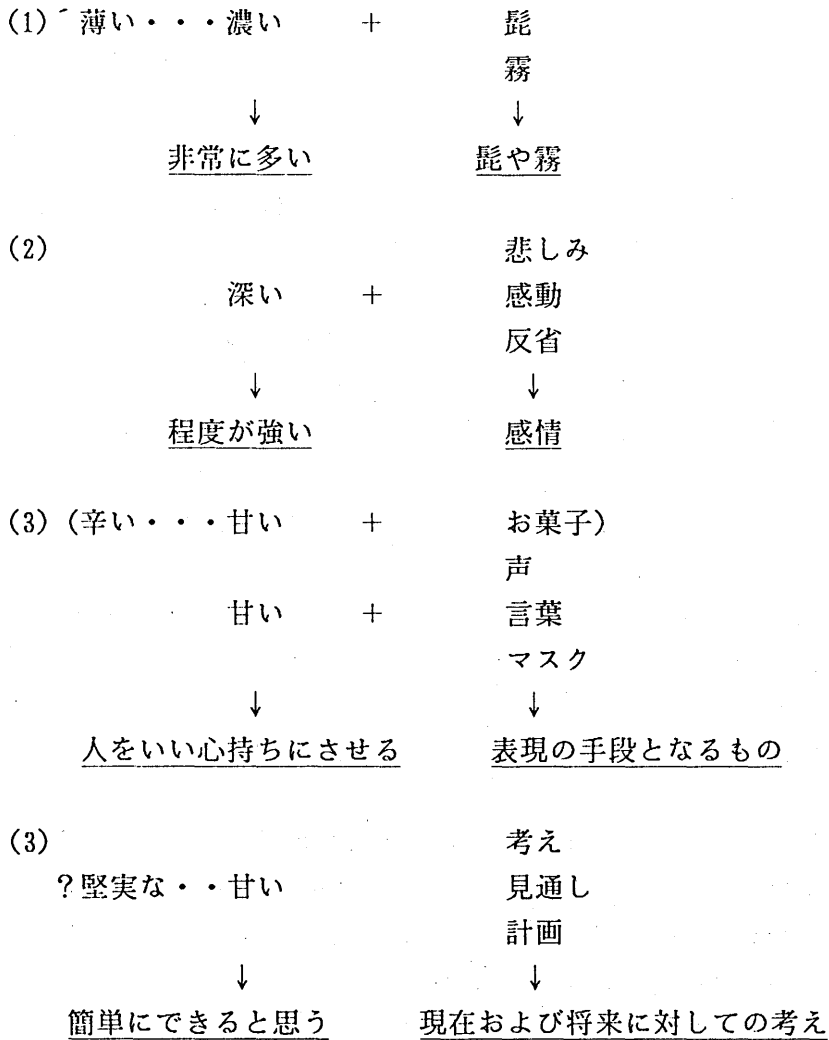
3. 形容詞/形容動詞+名詞

(1) 薄い・・・濃い +

↓
程度が強い

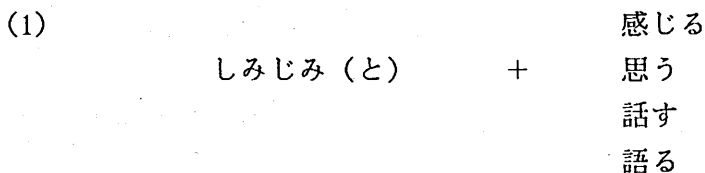
コーヒー
 スープ
 醤油
 味

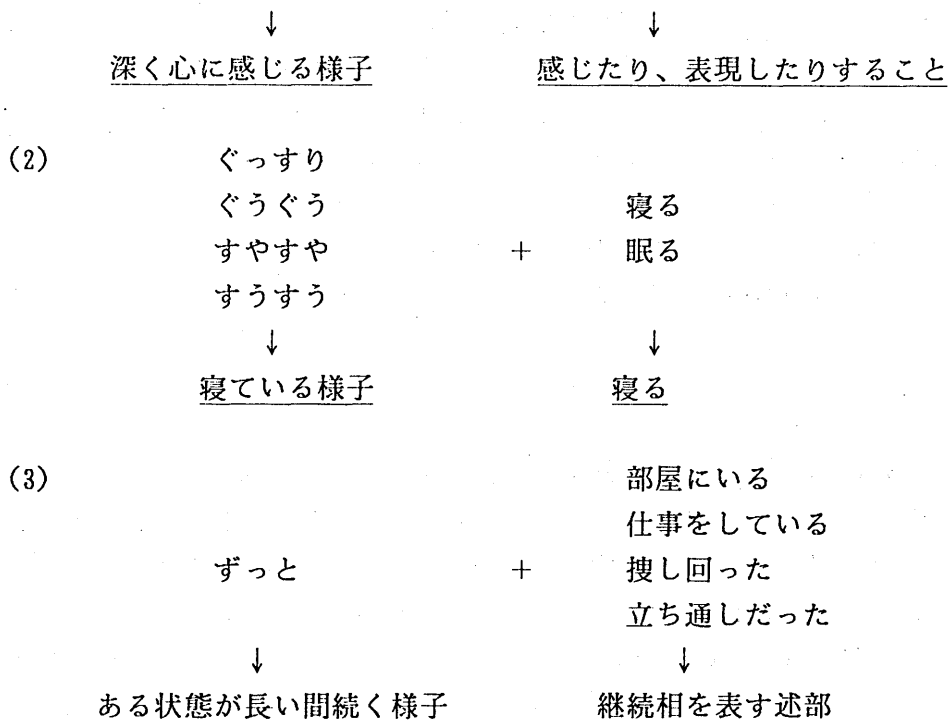
↓
飲み物や調味料や味



(3)で「甘いお菓子」は単なる語結合だが、「声」「ことば」「マスク」などの「表現の手段となるもの」の具体的な項目と共起する場合は、「甘い」は「人をいい心持ちにさせる」という意味になる。また、(3)のように、「考え」「見通し」「計画」のような名詞のグループと共起すると、「甘い」は「簡単にできると思う」の意味になることを示している。

4. 副詞+用言





副詞はその複雑な性格から、1～3のように語と語の共起関係では扱うことができないものが出て来る。(1)と(3)は後部要素である動詞及び述部のparadigmatic setを考えたが、(2)は前部要素の副詞のparadigmatic setを考えた。(2)の擬態語などはparadigmatic setを設定しやすいが、(3)の「ずっと」のような程度を表す副詞は特定なアスペクトやモダリティーと関係してくるので、より複雑になる。paradigmatic setを副詞に応用するのは難しい面があり、(3)も語彙的ではなく、文法的に分類したものである。

7. まとめ

本稿では、主に名詞を中心にそのparadigmatic setを考え、それらと共起する動詞や形容詞、形容動詞などを提示するという連語指導の一つの方法を試案として示した。これは同時に組織的かつ体系的にとらえにくい語彙のその教育に対する指導方法の試案でもある。

連語の中には、paradigmatic setを考えにくいものもある。しかし、可能な限り、学習者が把握しやすいかたちで連語を提示することは必要だろう。

特に、中級の段階では習得しなければならない語彙が急増するが、せっかく膨大な量の語彙を覚えても、それらを有効、かつ正しく運用できなければ意味がない。連語の誤用例をなくすためにも、また、未習の語に出会った時、その

語がどのような語と共起し連語を構成するか類推することができるようにするためにも、新出の語として連語がでてきたときなど、適当な時期に連語を整理し、そのparadigmatic setを提示し、共起する語を明らかにすることは学習者に連語の定着をはかるだけでなく、ひいては学習者の語彙力の向上にもつながることになる。

語彙の豊富さは、理解力や表現力の深さに深く関連している。表現力の多様化を目指す中級の段階では、このような連語の指導は特に意義があると思われる。

8. 今後の課題

国語教育においても、日本語教育においても、連語の研究はあまりなされておらず、その定義も一定していないし、また、その数量も構成語同士の共起関係も明らかでない。しかし、中級以上の日本語学習者が増加している現在、連語も含めた広く語彙の研究・開発は重要なものとなっている。一方、英国においては、“Corpus Linguistics”の発展とともに、語彙の研究はかなり進んでおり、その成果は外国人のための語学教育面にも応用され、Collins COBUILD English Language Dictionary(注14)などが出版されている。この辞書には、連語の情報も豊富に記載されている。また、1993年2月には、The BBI Combinatory Dictionary of English(注15)を増補翻訳した『BBI 英和連語活用辞典』(注16)が出版される。この辞典は主に名詞、動詞、形容詞が見出し語となっているが、見出し語の中心は名詞である。見出し語数は12000語で、連語例は70000語におよぶ。日本語教育においてもこの種の辞書や参考書が待たれる。

今後の課題としては、はじめに現行の主要な日本語教科書から連語を収集し、使用頻度の高いものから順に、できるだけ、そのparadigmatic setを考え、共起する語を明らかにしていきたい。しかし、この方法は「副詞＋用言」からなる連語には応用しにくいので、何かほかの適切な指導方法を考えていきたい。また、学習者の母語の干渉による誤用を防ぐために、他の言語の連語（あるいは語かもしれない）と対照研究することにより、類似点や相違点を明確にしていくことも重要だろう。

最後に、貴重な授業時間を割いてアンケートに協力して下さった飛鳥学院の木佐森先生、塚原先生はじめ諸先生、群馬大学の砂川先生、大分大学の糸川先生および学生の皆さんに心より感謝申し上げます。

注

- (1)石田敏子『日本語教授法』（大修館書店 1988年）による
- (2)国語学会編『国語学大辞典』（東京堂出版 1980年）
- (3)宮地裕「慣用句と連語成句」（『日本語教育』33号 1977年 所収）
- (4)国広哲弥「慣用句論」（『日本語学』1月号 明治書院 1985年 所収）
- (5)前掲論文(3)
- (6)前掲論文(4)
- (7)前掲論文(3)
- (8)筑波大学日本語教育研究会編『日本語表現文型 中級 I』『同 中級 I I』（凡人社 1983年）
- (9)国際交流基金編『基礎日本語学習辞典』（凡人社 1986年）
- (10)国立国語研究所『日本語基本語彙七種 比較対照表』（大蔵省印刷局 1982年）
- (11)畠郁「副詞論の系譜」（『副詞の意味と用法』 国立国語研究所 1991年 所収）
- (12)日本語教育学会編『日本語教育事典』（大修館書店 1982年）
- (13)Ruth Gairns and Stuart Redman “Working with Words”(Cambridge University Press, 1986)
- (14)John Sinclair(ed.) “Collins COBUILD English Language Dictionary” (Collins, 1987)
- (15)Morton Benson, Evelyn Benson and Robert Ilson “The BBI Combinatory Dictionary of English”(John Benjamins, 1986)
- (16)寺沢芳雄監修『BBI 英和連語活用辞典』（丸善 1993年）

参考文献

- 秋元実治 「コロケーションー大学教育の現場からー」 (『學燈』11) 丸善 1987年
- 石田敏子 『日本語教授法』 大修館書店 1988年
- 甲斐睦郎 『語彙に着目した教材研究』 光村図書 1990年
- 国広哲弥 「慣用句論」 (『日本語学』1月号) 明治書院 1985年
- 国立国語研究所 『語彙の研究と教育(上)(下)』 大蔵省印刷局 1984, 1985年
- 国立国語研究所 『日本語基本語彙七種 比較対照表』 大蔵省印刷局 1982年
- 国立国語研究所 『副詞の意味と用法』 大蔵省印刷局 1991年
- 阪田雪子 「日本語教育における慣用句」 (『日本語学』1月号) 明治書院 1985年
- 高木一彦 「慣用句研究のために」 (『日本語研究の方法』) むぎ書房 1978年
- 筑波大学日本語教育研究会編 『日本語表現文型 中級 I』『同 中級 II』 凡人社 1983年
- 中村明 「語の意味と固定連語の扱い」 (『日本語教育』33号) 日本語教育学会 1977年
- 西尾寅弥 「形容詞慣用句」 (『日本語学』1月号) 明治書院 1985年
- 宮地裕 「日本語の表現の類型」 (『日本語と日本語教育ー発音・表現編ー』) 大蔵省印刷局 1975年
- 宮地裕 「慣用句と連語成句」 (『日本語教育』33号) 日本語教育学会 1977年
- 村木新次郎 「慣用句・機能動詞結合・自由な語結合」 (『日本語学』1月号) 明治書院 1985年
- 村木新次郎 『日本語動詞の諸相』 ひつじ書房 1991年
- 森田良行 「動詞慣用句」 (『日本語学』1月号) 明治書院 1985年
- 森田良行 『日本語学と日本語教育』 凡人社 1990年
- Ruth Gairns & Stuart Redman "Working with Words" Cambridge University Press. 1986

辞典・事典類

- 小泉保他編 『日本語基本動詞用法辞典』 大修館書店 1989年

国語学会編 『国語学大辞典』 東京堂出版 1980年
国際交流基金編 『基礎日本語学習辞典』 凡人社 1986年
日本語教育学会編 『日本語教育事典』 大修館書店 1982年
日本語教育学会編 『日本語教育ハンドブック』 大修館書店 1990年
林巨樹監修 『現代国語例解辞典』 小学館 1985年
飛田良文・浅田秀子 『現代形容詞用法辞典』 東京堂出版 1991年
森田良行 『基礎日本語辞典』 角川書店 1989年

資料

中級日本語学習者に対する連語能力調査用紙

名前 _____ 年 齢 _____ 性別 _____
 日本語学習歴 _____ 年 _____ か 月 _____ 母語 _____
 日本語のほかに勉強したことのある外国語 _____

次の質問に答えてください。なお、わからない言葉があったら、その言葉の下に線をひいてください。

- () の中に適切な動詞 (例 食べる、書く) をひとつ入れなさい。
 - わたしは毎朝シャワーを () 。
 - かさを () て歩いている人はお父さんらしい。
 - わたしは日本文学に興味を () ている。
 - あの人は必ず約束を () 。
 - 彼は20年も車を運転していますが、まだ一度も事故を () たことがありません。
 - わたしは田中さんといつも意見が () ない。
 - 電卓は歳男が () すぎて、とても暑かった。
 - 荷役も話し合いましたが、なかなか結論が () ませんでした。
 - 嵐が () と、道りはとても静かになりました。
 - 国民は税金を納める義務が () 。
- () の中に適切な形容詞 (例 おいしい、楽しい) か形容動詞 (例 元気、便利) をひとつ入れなさい。
 - 日本では () コーヒーのことをアメリカンという。
 - 田中さんは () 病気で3か月も入院している。
 - 父親と母親が仲が () と、いい子は育ちません。
 - わたしは意志が () ので、たばこをやめようと思っても、どうしてもやめられません。
 - どうも最近ワープロの調子が () 。
 - 彼女と結婚して、 () 家庭を作りたい。

3. () の節に適當な副詞(例 とても、ぜんぜん、べらべら)を
ひとつ入れなさい。

- a. 昨日の試験は() できましたか。
- b. 日本に来て以来、() 東京に住んでいる。
- c. 田中さんは約束どおり() 3時に来ました。
- d. 日本語がよくわからないので、() ゆっくり話してください。
- e. わたしは() 寝ていたので、火事があったのを知りませんでした。
- f. () 長い間、お目にかかりませんでしたね。
- g. 妹はテレビを見ながら、大きな声で() 笑っている。